

# 広報 やさと

平成2年 7 月号

No.421 毎月15日発行

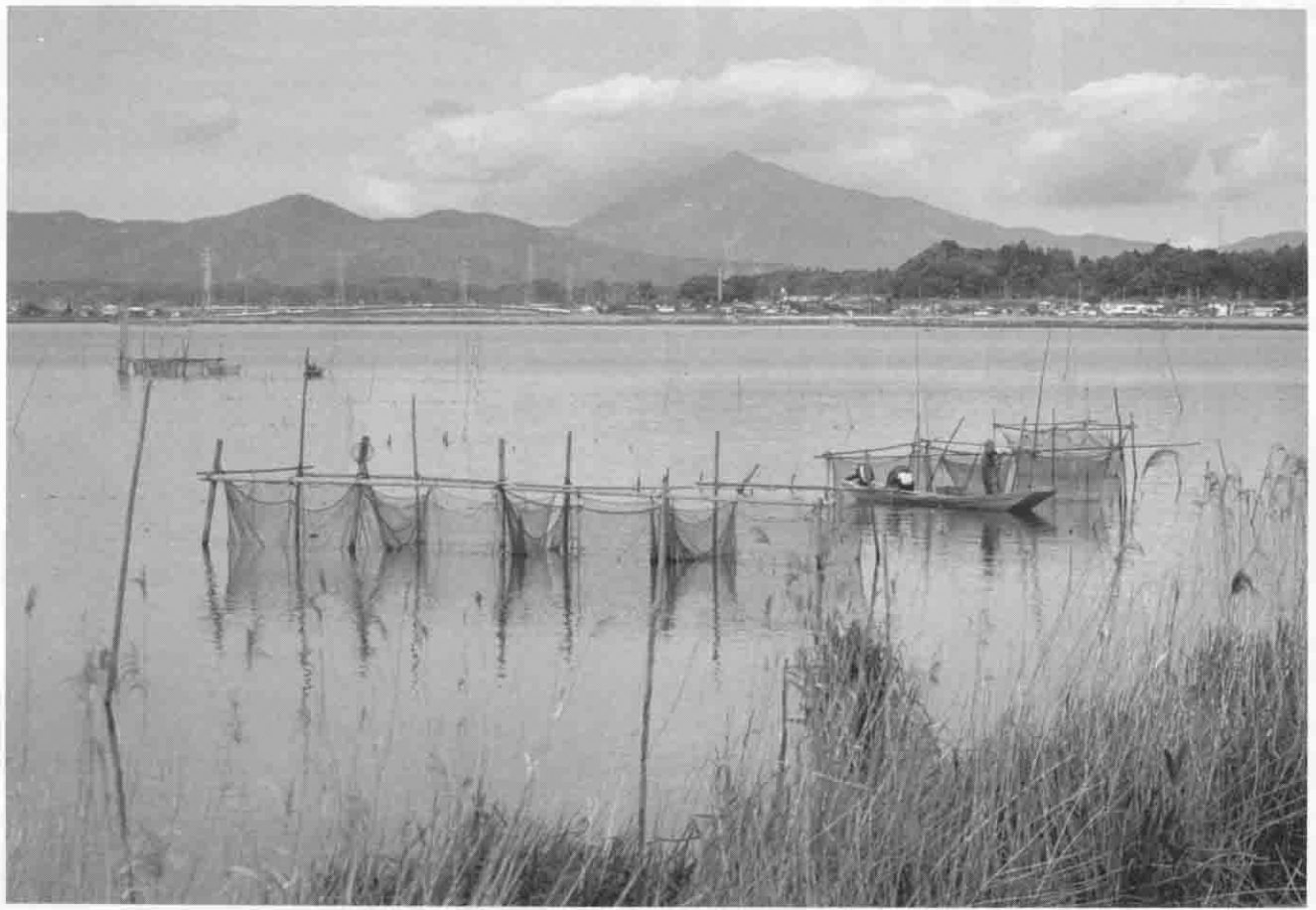
●発行／八郷町役場 ●所在地／茨城県新治郡八郷町柿岡2009の3 〒315-01 ●編集／広報課 ☎0299(43)1111 内線116番

## 特集「水と緑のシンポジウム」

「こういう水で米が作られると思うとがっかりします」と、霞ヶ浦湖畔にたたずみ複雑な面持ちで話す瓦谷の田中拡さん。今、世界的な規模で環境の汚染や破壊の問題が取り上げられていますが、こうした問題は、わたしたちの周りでも例外ではありません。

わたしたちを取りまく自然環境はどうあるべきなのでしょう。八郷を囲む六市町村の広報担当と石岡青年会議所は、このテーマを地域の皆さんと共に考えようと、6月16日、石岡市民会館に約600人の皆さんを集め、「21世紀の自然環境を考える“水と緑のシンポジウム”」を開催いたしました。今月はこの内容を紹介します。

◇町の人口(7月1日現在) 男14,636人 女14,983人 計29,619人(前月比+30) 世帯数7,031世帯(前月比+15)



今日、環境汚染や自然破壊の問題は、わたしたちの周りでも例外ではありません。万葉に謡われ、満々と水を湛える霞ヶ浦も、今ではアオコが浮き、このままでは魚も住めない湖に変わろうとしています。わたしたちは、今その水を飲料水として利用しているのです。

美しいふるさとのシンボルであった霞ヶ浦。その水を養っているのが上流の緑です。緑の山も、採石場やゴルフ場などの開発で次第に自然が失われつつあります。

この「水と緑のシンポジウム」は、二十一世紀の自然環境を考えるをメインテーマに、霞ヶ浦北岸上流域に広がる自然環境の積極的な保護について、みんなで考えていこうというものです。第一部は、水と緑の環境問題の第一人者富山和子さんの奏でる基調講演「水と緑のシンフォニー」。第二部は、八郷・石岡・笠間・岩瀬・千代田・出島の六市町村の住民の方が、それぞれの立場から「水と緑の自然環境を守るために」わたしたちはどうしなければならぬのか討論します。

わたしたちは今、この問題を真剣に考えなければならぬ時期にきているのです。

基調講演「水と緑のシンフォニー」

# 日本こめの山は米が作った

●環境問題評論家 富山和子

●富山和子 群馬県生まれ。早稲田大学文学部卒業。大手出版社の編集者を  
経て、現在、評論家、立正大学短期大学教授（環境社会学）。水問題を森  
林、林業の問題にまで深め、今日の緑ブームのさきがけとなった。自然環境  
保全審議会委員などを歴任。現在、中央公害対策審議会委員、林政審議会委  
員などを務める。「水と緑と土」「日本再発見・水の旅」など著書多数。

## 緑がなぜそんなに 大事なのか……

私は、全国の山や川を歩いておりま  
すが、そのたびに必ず考えさせられる  
ことがあります。それは、わたしたち  
は自然に対しても歴史に対しても思い  
違いをしていないだろうか、というこ  
とです。たとえば、昔から文化の中心

が、大河川の最下流にあったような錯  
覚をしがちですけれども、本当に関東  
平野の下まで行き渡ったのは江戸時代  
で、それ以前は長い山の文化の時代が  
あり、日本の山は栄えていました。ど  
れほど栄えていたかという、江戸末  
期、日本の山には木地師が五、六万人  
いたそうです。木地師というのは、山  
でロクロを引いてお碗を作ったり、お  
玉杓子を作る人です。人口二千万人の  
江戸時代にです。木地師のほかに漆か

きもきこりもいた。猟師も修験者も炭  
焼きもいました。そういうことをわた  
したちは、今あまり考えなくなってい  
ます。  
もう一つの思い違いは、日本の森林  
は荒廃しているという認識です。そん  
なに荒廃しているでしょうか。終戦前  
後、日本の山々ははげ山だらけでした。  
それが証拠に、昔はちよつとの雨で大  
水害になりました。同じ雨が降っても  
今は微動だにしないことの方が多くな  
っています。それは、河川改修も進み  
ましたが、まず第一に山が回復したか  
らなのです。だれがそれをやって来た  
かという、山村の人、林業の人たち  
です。だから、破壊と言えば木が減っ  
たことではなく、今その木が育ったの

にやる人がいなくなったことなのです。  
それから、あなたは森林の恩恵を受  
けていますか？という問いに、受けて  
いないと答える方が多くなっています。  
しかし、わたしたちの飲んだ水は、ど  
こから来ているのでしょうか。ダムか  
らと言うかも知れませんが、ダムに注  
ぎ込むおおもとの谷川の水は森から来  
ているのです。  
もう一つ、山の文化が下へ降りて関  
東平野が開けきった江戸時代、土地と  
いうものは、自然と一緒にあって人間  
が作りました。これが治水です。だれ  
がやったか。農民がやった。何のため  
に。米のためにです。水一つ見るのに  
も、土地を見るにも、そういう大きな  
視野が欲しいのです。





今、緑ブームだそうですが、何でそんなに大事なのか。そういうことをきちんと整理して議論したことがないと思います。緑が大事な理由は、木材を作る、野鳥も育てる、水源をかん養す

る、山崩れも防ぐし、フイトンチッドという人間の健康に役に立つものも出してくれる。緑の効用は、そのほかにもいろいろあります。でも、森林が大事な理由は、この一つを挙げれば大体

言い尽くせます。それは土を見て欲しいのです。水は土の産物です。そして汚物を処理できるのも、やはり土しかないのです。重金属などは別ですが、人間の排泄物とか、ゴミを処理できるのは、土しかありません。その土の形成者が森林です。これで、森林の大事さは言い尽くせます。

## 農業の先行き不安は 民族の明日にかかわる

ところが、もう一つ、わたしが山に対して抱いていた心配が、平場にまで降りて来てしまいました。農業の先行き不安。土の担い手がいなくなったことです。これは民族の明日にかかわる問題です。山村が廃墟になれば、都市もいずれ滅びてしまいます。でも、今はそれが分からなくなっています。自然を守るといふことは、自然を利用してこそ守れるものです。海の漁民の皆さんが漁業権を企業に明け渡した時から、海は汚染が始まり、山村の人たちが石油に駆逐され、炭焼きができなくなつて、あるいは外材に押されて木材が売れなくなつた時から、山が荒廃し始めました。やはり、自然を生産活動で利用する人がそこにおいて、国土が守れるのです。

日本は地形が急峻で、川は短いため、降った雨は一度に洪水流となつて海へ流れてしまいます。基本的には、降れば洪水、照れば渇水の国土なんです。

急流な暴れ川の氾濫源に、主たる土地利用を求めて来たのが日本人でした。氾濫源だからこそ、そこは豊かな水資源があり、水害が宿命的了でした。そういう付き合い方の難しい川と日本人は実にうまく付き合つて来た。どういふ付き合い方をしたかという、降った雨を土に返すという思想です。

森林と水とはどのような関係にあるのかと言いますと、昭和三十九年、東京オリンピックの年に、東京が歴史始まって以来という大干ばつに見舞われました。当時東京の唯一の水がめだった小河内ダムという、多摩川上流のダムが干上がったしまったのです。来る日も来る日も一滴も降らない真夏日が続く最中にも、小河内ダム周囲の二万ヘクタールの森林からは一日三十万トンの水が、毎日同じ分量ずつ提供されていきました。これが、都民のぎりぎりの命綱になったのです。このように森林というのは、降った雨を受け入れて、安定的に吐き出してくれるのです。水は、この安定ということを考えなければなりません。

このように見てくると、現代社会は明治以降とだけ川をいじめてきたかが分かると思います。堤防でちゃんと川を仕切つて、洪水は川に処理してもらう。ですから、治水を進めれば進めるほど流域が開けて都市化・工業化が進み、前よりも洪水が作り出され、前よりも川が危険になり破れる。このように治水と水害のいたちごっこが起こ

り、そして、その裏返しとして水不足が騒がれるようになりました。そうして、大都市から周辺部へと広がって来たのが今の水問題です。水が間に合わないということ、戦後はダムを造り、水を遠くから持ってくることになりました。でも、ダムだけでは、水の問題は解決出来ません。というのは、ダムは水と一緒に土砂をせき止めてしまいます。十年、二十年を待たずに埋まってしまうダムもあります。それを防ぐには、可能な限り土砂を斜面に、山につなぎ止めておかなければなりません。

わたしは山奥のダムをよく訪ねますが、ダムのさらに奥まで木が植わっています。それを見ると、あの森林は、だれがこの先、切り植えるのだろうか。だが、苗木を背負ってあんなに上まで行って植えるのだろうか。そう思うと、足元の大地が揺らぐような不安な思いがします。どうしても土の担い手を山の斜面につなぎ止めなければならぬのです。

## 農業を守ることが 環境を守る原点です

霞ヶ浦も同じだと思います。このあたりの森林、そんなに急峻で深い山ではないけれども、やはり手が入っていない。そうすると、流域が浅い。ならなおのこと、よほど森林を整備しなければ、水そのものが足りなくなってしまう。

くだらうと思います。

水と緑と土は同義語です。なぜなら水のないところは、裸の岩山や砂漠であり、そこには緑も土もありません。緑のないところは、やはり裸の岩山や砂漠です。ですから、「緑を失った文明は滅びる」という言葉、これは「土を失った文明」でも「水を失った文明」でもいいのです。事実、メソポタミアやギリシヤなど過去に栄えた文明は、みんな水不足か水害、食料不足などで滅びています。過去の文明は、そうして土壌の生産力を失って滅びています。ですから、わたしたちは、いかにして土を陸地につなぎ止めておくかが課題であり、生き残る条件なのです。土こそは、ゼロから始まって生物たちが作り上げてきた陸地の太陽エネルギーのたった一つの貯金です。土こそ人間が参加できる唯一の資源なのです。みんなが、土作りに参加しなければならぬ義務があるのです。

わたしは、昔の日本人、先祖たちは、この法則を知っていたのだらうと思います。昔の日本人は、土から得たものを土へ返したのです。森林が土を作ると、洪水で押し流されてきます。でも下流の農民の皆さんは、その洪水が持ってきたヘドロまで大地につなぎ止めて、受け入れて農地を豊かにしたのです。

もう一つ面白いことがあります。森林は海の魚も養います。川や湖の魚はもちろんです。海岸の森林だけではな



く、内陸の森林、筑波山の森林でも、太平洋の魚を養っています。どうやって養っているかは、「日本再発見・水の旅」という本をお読みいただきたいのです。その魚まで、昔の人たちは陸地にまた引き上げて張りつけました。江戸時代、日本の沿岸漁業が急速に発達します。それは、主として肥料のためでした。日本海側のニシン漁業、太平洋のイワシ漁業が代表です。九十九里浜の漁村などというのは、全部肥料のために生まれたのです。

つまり、土作りにみんなが参加したのです。わたしは、「日本の森林は、お米のもと、水も土も作った。でもその森林を作ったのは米であった」と言ってきました。わたしは、ある時、四国のお年寄りが「日本の山は米が作った」と言うのを聞いて、ハッとしました。

山すそへ行くと、山の斜面を金色の

稲穂がはい上がっているところは、山も手入れが行き届いて、生き生きとしています。数年前に島根県へ行きました。中国山地の山々は、江戸時代に炭焼きで栄えましたが、石油が入ってくると、炭焼きがだめになって過疎になりました。昔の段々畑は跡形もなく、広葉樹の山も、人を立ち入らせないような荒れ果てた姿でした。「紅葉はきれいだけれども、台風でも来たらひとたまりもないな」と心配して帰って来たら、翌年あの大水害でした。「ああ、日本の山は米が作った」と言ってきたのは、本当だなと思いました。山村で農業がやっていけなくて、どうして林業だけでやっていけますか。

ですから、緑、緑と言わずなら、日本の農業をどうするのか。そこまで一縷に考えなかったなら、山の緑も語れないはずなのです。今、ご承知のとおり、お米は大変問題になっています。やはり、農業は大事にしないと、わたしたちが大変なことになります。汚染どころか、水そのものも失ってしまうと思います。

私は、生活をかけて自然と付き合っている人たちを守ることが、環境を守る原点だと思います。農林漁業にかかわる方たちは、そういう意味でも胸を張って欲しいし、そのあたりから地球環境・日本の環境問題が発発するのだと思います。

(講演内容を要約して掲載しました)

パネル討論「水と緑の自然環境を守るために」

# 霞ヶ浦は

# 日本で最も汚れた湖

八郷を囲む石岡・笠間・岩瀬・千代田・出島の六市町村から選ばれたパネラーは、六月二十一日に岩瀬・笠間・八郷、そして茨城県内水面水産試験場など、霞ヶ浦流域北西部を現地踏査、河川の汚染状況や自然破壊の状況を見て歩いた。パネル討論は、「水と緑の自然環境を守るために」をメインテーマに、前半を霞ヶ浦にしぼり、後半は、自然を守る・活用というテーマで話し合っていました。

## 80種類もいた魚が 今は30数種類……

**沼沢** パネル討論は、前半のテーマを霞ヶ浦にしぼり、後半は、自然を守る・活用というテーマで進めたいと思います。先日、わたしたちパネラーは、霞ヶ浦の流域北西部を現地視察ということで回ってまいりましたが、その時の感想からお伺いしたいと思います。

**田中** 内水面水産試験場で、昔は霞ヶ浦に八十種類もいた魚が、現在は三十数種類しかないという話を聞き、農業汚染それから水の汚濁、こういうものに対して、非常に、これはなんとかしなくちゃならないなあ〜と強く思いました。特に、八郷町ではゴルフ場の造成地を見ましたが、ゴルフ場も現在造成しているのを加えると、霞ヶ浦の流域に四十以上出来るといふことで、ゴルフ場の農業汚染という問題も一つ

考えなくてはならない。自分たちが農業で使う農薬についても、深く反省しなくてはならないと感じました。

**宮田** 我々の住んでいる岩瀬町と比べた場合、霞ヶ浦、あるいは山王川のおいのひどいのにビックリしました。

**沼沢** 出島村の桜井さんは、内水面水産試験場の視察にだけ参加されたんですけど、霞ヶ浦の現状をどのように見ているのか、桜井さんから口火を切っていただきたいと思います。

**桜井** わたしは、昭和二十年代ころまで霞ヶ浦を遊び場にして育ちました。三十年代に入りますと、そこは稼ぎの場であつたわけです。魚の最も取れた時期が、三十年代から四十年代でした。昭和三十八年に逆水門が出来、四十七・四十八・四十九年と霞ヶ浦にアオコが異常発生したわけですけど、その時までは、逆水門とか水質の汚濁なんていうことは考えもしなかつたわけです。四十七年から魚がまったく取





県の内水面水産試験場で、浜田部長から霞ヶ浦の汚染状況や魚介類の生育状況を聞く、パネラーと各市町村の広報担当者。湖の酸欠状態は、48年当時より最近の方がひどいとの話が出た。

れなくなつて、これは一体どうなつたんだ。ということ、それからずいっと水にかかわつて来たわけだ。  
四十八年で霞ヶ浦の水産業というのは壊滅したと思つたわけですが、これがどうにか五十年を境に何とか魚を飼える状態の水は維持できているわけ

すけど、しじみ、たにし、イケチヨウ貝それから藻ですね。こうした湖底にあるものは、まったく姿を消してしまいました。  
沼沢 桜井さんは、霞ヶ浦と毎日接して暮らしているわけ、それだけ非常に切実な問題なわけですが、一般的に霞ヶ浦に流れ込む

河川の上流に行くほど、住んでいる人たちは霞ヶ浦に関心がありません。  
そこで、恋瀬川あるいは桜川の上流に住んでいるパネラーの方たちは、霞ヶ浦の現状をどう見ていらつしやるのか、お伺いしたいと思ひます。  
渡辺 霞ヶ浦の汚染の状況をわたし

た。しかし、最近、琵琶湖なんか水がかび臭いということでテレビなどで取り上げられ、霞ヶ浦の二の舞にならないう運動して行こうというようないことが言われております。そういううなことを聞きますと、霞ヶ浦というのはよほど汚れているんだなあとというふうに思ひます。  
霞ヶ浦が、日本で最も汚れた湖であるということ、こういった現実を、わたしたちはもう一度見つめ直す必要があると思ひます。  
**汚染は家庭からの雑排水が原因では**  
沼沢 笠間の田中絢子さん、主婦の立場でいかがでしょうか。  
田中絢 わたしどもも生活学校とか婦人会の方と一緒に、霞ヶ浦をすうつと船で見て歩いたこともございます。で、本当にこれは容易じゃないと切実に受け止めています。それと同時に、こういうふうにしたのはだれかということになりますと、やはり、これは企業でもあるし、あるいは工場排水でもある。しかし、私は、これは家庭からの雑排水が一番大きな原因ではないかと思ひます。  
具体的に申しますと、仮にてんぷら油をスプーン一杯流しますと、魚が住める状態になるにはふろおけ十杯の水が必要になります。それから牛乳一本はふろおけ十杯米のとき汁

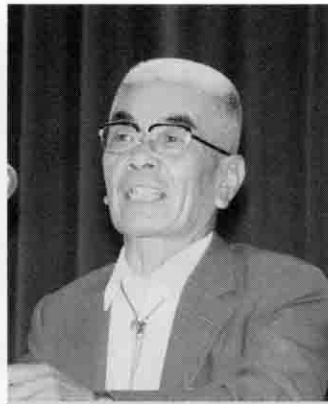
も四杯かかります。中でも、このてんぷら油の使い捨てが大きな問題で、これをどうするか、というのが大きな課題ではないかと思ひます。この食用油の問題は、最後まで使い切ることが資源の節約にもなりますので、それが一番理想なんです、これがなかなか徹底しない。油のリサイクルをしますと粉石けんになるといふことを踏まえ、こうした運動をいかに定着させるかということが今後の課題だと思ひます。  
沼沢 八郷町の田中さんは果樹園経営ですけれども、昔は農作をやられたということ、農と霞ヶ浦のかかわりについてお願いします。  
田中 八郷町は県内でも有数の広さを持つ町村で、そのうち山林・原野で約七〇%を占めています。わたしもそういうところで育ちましたので、先日、霞ヶ浦をして山玉川を見るまでは、自分たちのところから流れる川がこんなに汚れているとは思ひもしませんでした。わたしどものところでは、昭和四十六年に土地改良事業を行い、昨年から霞ヶ浦の水が通水になったわけですけど、今度、改めて霞ヶ浦や山玉川というところを見て、こういう汚染された水が米作りに使われるのかなあ、とがっかりしているところ

## ● パネラー

(本文敬称略)



宮田政昭(44)さん  
(岩瀬町・農業)



田中 拓(65)さん  
(八郷町・果樹園経営)



渡辺弘明(36)さん  
(石岡市・青年会議所理事長)

利用して米作りをしているわけですが、こういう汚染された水で米を作るということを考えますと、我々の農業用水は農家のために作ったのではあるけれども、農家の土地を浄化槽がわりに使われるのかなあというようにわたしは思いました。今日お集まりの中にも関係機関の方がいると思いますが、そんなことのないようお願いしたいと思っています。

### 霞ヶ浦が変わったのは 逆水門が出来てから

沼沢 霞ヶ浦用水は、県西の農地の方に引かれ、農地を潤してまた霞ヶ浦に戻って来るわけですが、その課程で水が浄化されるのか、それとも、また肥料分を含んで富栄養化して戻って来るのか、その辺が本当はポイントなんです。なかなかそこまで考えている方は少ないようです。

今のパネラーのお話で、霞ヶ浦を汚している原因がどの辺にあるかということとは分かって来たかと思いますが、じゃあ霞ヶ浦をまた昔のようにたくさんの生きものが住み、安心して飲める水に戻すのはどうしたらいいかということですけれど、一つには、先ほどの富山先生の講演に「流域の緑が豊かであれば水はきれいになるんだ」というお話がございました。それで、千代田村の田崎さん、田崎さんは仕事そのものが緑を増やす事業なんですけれど

も、霞ヶ浦の水をきれいにするために緑がどのように働くか、その辺のお話をいただきました。と思います。

田崎 ちよつと違うんですが、どうして緑を生産するかということですが、農家人口が今かなり減っているんです。後継者にしても、一集落で一人か二人ぐらいしかいないわけです。耕地面積が何百ヘクタールである中で一人か二人です。農家が貧しいということとはちよつと意味が違うかも知れませんが、後継者が残れないんです。ク

ラーのある生活もしたいし、車も乗りたい。そうすると、農業をやっているのでは車も買えないし、クレーのきいた部屋にも入れないんです。そういうことが即、土地を売るといふことにはつながりませんが、農業を放棄して違う仕事につくということ。それが一つの大きな原因かと思うんです。で、緑がなくなる。荒れるということ。それを僕らが補給するということになって来るかと思えます。

沼沢 富山先生の話にもありましたように、緑を守るといってもなかなか大



笠間市の飯田ダムでは、取水した水と持参した霞ヶ浦の水の透視度を測定。霞ヶ浦は16cm、飯田ダムはもちろん50cm以上でした。

変な仕事ですし、農業あるいは森を守っている人たちの生活というのは、なかなか維持できなくなっているという現状があるわけです。ですから、単に緑を守るといっても国家の政策として、あるいは国や県のレベルで考えていかなきゃならない。そうした地域を活性化するためにも、もっと高いところから緑を守る問題に取り組んでいただきたいと思えます。霞ヶ浦を汚している原因は、ほかにもいろいろあるわけですが、出島の桜井さん、霞ヶ浦をもとのきれいな水に戻すのには、一





コーディネーター  
沼沢 篤(38)さん  
(土浦市・霞ヶ浦情報センター研究員)



田中 絢子(78)さん  
(笠間市・婦人会役員)



桜井 謙次(51)さん  
(出島村・漁業)



田崎 秀明(40)さん  
(千代田村・緑化生産業)

体何が一番必要だと思いますか。

**桜井** これは、霞ヶ浦の自然がどういうふう<sup>う</sup>に損なわれたか、ということですね。すけれども、まず、一番変わったのが逆水門が出来てからです。水門が出来以前は、月二回、大潮で大量の水が霞ヶ浦に出たり入ったりしていたわけですね。それが逆水門が出来て、海水と混ざり合った利根川の水が、今度は来なくなりました。これが、一つの自然の浄化機能が損なわれた大きな原因かと思えます。

それからホテアオイを使ってチツソ、リンを取るというようなことを土浦の自然を守る会のみなさんが真剣に取り組んでいます。ホテアオイで水がきれいになるとすれば、霞ヶ浦には三十年代、四十年の中ごろまでは大量の藻<sup>も</sup>がおい茂っていたわけですね。しかし、それが現在は、まったく姿を消してしまいました。良く湖岸堤のために葦<sup>わ</sup>やまこもが無くなったといわれますが、そういうようなものがどの程度水質の浄化に役立っていたかというのは、ホテアオイで水がきれいになるとすればもう一辺洗い直す必要があるのではないかと思います。

**沼沢** 今お話に出ました逆水門といいますが、ご存じない方もいるかと思いますが、昭和三十八年に、霞ヶ浦の下流に常陸利根川というのをごいまして、その川が利根川と合流する地点に造られた水門なわけです。で、当初は開けたり閉めたりしていたのですが、

昭和四十五年ごろから完全に閉め切るようになりまして、ちょうどそのころと期を同じくして、汚濁が進み、養殖の魚が死んだり、アオコが大発生したりというようなことが起きるようになったわけですね。逆水門そのものは淡水化の目的のために造られたわけですが、

農業用水や飲料水、工業用水という形で利用されているわけですから、その構造に依存する経済構造が成立した今となつてはなかなか開けにくいというような現状があります。ちょっと難しい問題なんですけれども……。

ここで前半の討論を打ち切らせていただきます。後半の自然の保護と活用というテーマでお話をいただきたいと思えます。まず、パネラーの方々に子どもの時代、それから成長するにしたがってこの茨城の豊かな自然にどのように親しんで来たか。その辺からお話をいただければと思います。

### 昔の川はとてもきれいでよく泳ぎに行ったもの

**渡辺** 私の子どものころは、今ごろの季節になりますと、水田に行ったり、あるいは川へ行つて釣りをしたり、まあ一般の方がしているような遊びをしておりました。また、私はちょうど高校生のころに海に大変興味を持ちましてアクアラングを始めたんですが、何度か潜っているうちに岩礁地帯に住む海藻の中うみづくにいる小さなエビとか、そ

ういった甲殻類こうかくるいに興味を持ちまして、海の中の小さな生物を良く見るようになりまして。海の中には岩があります

が、そういう岩の中にもたくさん生物がいます。海に潜った場合には、まず、岩をどかしたらまた同じ位置に戻すというルールがあり、そういうものを通じながら、私はこの自然環境というものを見直していきたいというふうに思っています。そう見ますと、陸上の自然というのは確かに破壊されつつあるなあーと思えます。

**沼沢** 笠間の田中絢子さんは、主婦として子育てあるいは家族の健康問題を考える時に、自然というのはどのようなあつて欲しいとお考えでしょうか。

**田中** 私が子どものころといいますが、古い昔のことになるのですが、そのころの川は本当にきれいで、川に行つて泳ぎました。私の息子の時代も沼沼川で泳いだんです。で、息子がまたま帰って来まして、沼沼川に行つたところがものすごく汚れたたものから、帰って来て「お母さんひどい汚れたねえ。こりゃもうとても泳げないよ。残念だね」といった言葉が今でも記憶に残っているんですけども、これは取りも直さず、一人一人の川をきれいにしてしようという心構えがおろそかになつたのではないかと、としみじみ考えております。

**沼沢** 八郷の田中さんにお聞きしたいのですが、農業というのは、それこそ

自然を壊さずに、非常に自然と懸命に付き合ってきた産業だと思っただけですが、それでも、そういうご自分の経験から、自然の活用についてお話し願えればと思います。

## 地域の発展、町づくりは自然との調和を考えて

田中 農業も確かにわたしたちのところは、田植えは手でやりました。しかし、その自然といいますが、昔のように返ることも決して望んでおりません。特に八郷町の場合には、どこへ行っても、これが自然ですといわなくても全部自然でございます。先ほどゴルフ場の話が出ましたが、ゴルフ場も自然を壊さない程度。いろいろな事情によってゴルフ場も造成されております。決して悪いとは思いません。農業だけで生活するというのはなかなか困難なことでございます。ですから、自然を破壊しない程度、農業の汚染をさせない程度、そういうことを考えながら農業と取り組んでいきます。

沼沢 千代田村の田崎さんは、非常にすばらしいお仕事をなさっているわけですが、これからは、その自然を守りながら自然を活用していく知恵みたいなもの、その辺をお伺いしたいと思います。

田崎 調和させるために仕事をしているのじゃなくて、農業ではなかなか食べられなくなったから緑化の事業に転

向しただけなんです。普通の農業、野菜を作ったり、米を作ったりしてはなかなか追いついていけない。それで打開策ではないですけど、少しはこれの方がいいだろうということで、決して緑化など大義名分はないんであります。食うために……。緑化が売れるということがおかしいと思っただけですが、事業が非常に伸びている。まあ、後継者の一人として、農村の環境を守っていくにはなかなか大変なことだと実感しているしだいです。

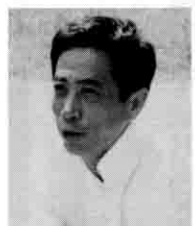
沼沢 では、だいぶ時間もたつてまいりましたので、最後に、これからわたしたちが自然の調和を目指していき、豊かな自然をわたしたちの子どもたち、孫たちに残すためにはどういうことを考えていかなければならないか、その心構えについて一言ずつお話をいただきたいと思っております。

渡辺 町づくりといえますと、ミニ東京的な発想で、商業の活性化とか、そういうことが町づくりであるというように誤解されている部分があると思えます。でも、これからこの地域を発展させていくのには、どうしても自然が大事であるということ、今日の講演を聞いてお分かりになったと思います。農業も漁業も守っていくとちやならない、そういう自然との調和の取れた町づくり運動というものを、これからいろいろな方々と、行政も含めて積極的に討論しながら進めていかなくちやならない時代が来ているのではな

## 魚介類から見た環境評価

茨城県内水面水産試験場

浜田篤信



「霞ヶ浦はきれいになったか？」という場合、「きれいになる」という判断の基準が問題です。わたしは水産という立場で霞ヶ浦と取り組んでいまして、「一般漁業や網いけす養殖業を営むうえで、何ら問題のない環境」を「きれいな」環境と定義して、この問題をお話することになります。

二番目に問題となるのは、過去のいつごろの時期に比較して判断するかということ。霞ヶ浦の湖全域に酸素量の低下がおこり、天然魚、養殖魚に大きな被害が発生した最初の年は、昭和四十八年でした。この年は、魚病の発生、ヤマトシジミのへい死、ワカサギの減少、テナガエビ・ハゼ類のへい死、養殖ゴイ千五百トンのへい死が発生し、漁業に大きな被害が出ました。

このような観点からすれば、漁業被害発生の頻度が「きれいになったか？」の良い判断基準になると思います。四十八年以降の漁業被害の状況は、四十九年に六百トン、五十三年百五十トン、五十四年三百五十トン、五十七年に二百五十三トンの養

殖ゴイが死んでおり、これをプランクトンの発生状況と兼ね併せて見ると、昭和五十五年以降は漁業被害が恒常化する傾向にあります。

公害防止条例や霞ヶ浦富栄養化防止条例の施行、あるいは浄化への努力によって流域から流れて来る物質の質と量が変化したことは、河川の調査結果が示すとおりであり、夏季の透明度が昭和五十五年ころから若干良くなって来ていることや湖岸に集積されるらん藻類の「水の華」が減少して来ていることなどから、見ただ目で判断するのであれば、あるいは「きれいになった」と言えるかも知れません。しかし、それは利水の目的によって評価の基準が異なるので、意見が別れるのは当然のことと言えます。

わたしは、霞ヶ浦の漁業が長期的に営める環境、漁業被害のない環境を「きれいな」環境と定義しましたが、こうした見地から言うと、霞ヶ浦はきれいになっていないと言えます。

(国立公害研究所発行・霞ヶ浦臨湖実験施設研究発表報告集4より)



林地区のゴルフ場造成地で、町企画課長から「このゴルフ場には約55%の林地が残されることになっている」と説明を受けるパネラー。

いかと思います。

**田中 絢** 私の方には笠間を良くする市民の会というのがございます。これは単にご婦人ばかりでなく各種団体の方企業の方も交じって、本当に水と緑を守っていくのにはどうしたらいいかというようなことで、これからより一層共通理解を深めた運動を展開していかなくちやならないと、今しみじみ考えています。

**田中 霞ヶ浦の水が汚れているという**

ことは、これまでも聞いておりましたし、見もしました。わたしは果樹の栽培をしており、東都生協の方へ出しているのですが、省農薬、減農薬といったものが、農薬を減らした果樹を作っております。いいものは、自然はどこまでも残すという考え方で周りのものとも協力しながらやっておりますけれども、まあ、自然を残すといっても、現代の進んでいる社会の中で、あくまでもその物を守るといって考え方も、子に渡すというように考え方も通りはあるかも知れませんが、日進月歩や進み進むべき道は進んで、改良されるものは改良され、新しい方向で農業を守っていきたいと考えております。

**宮田** 自然を残すということ、我々は農家ですから農地を残すという観点で、わたしが一番心配しているのは、霞ヶ浦用水の弊害なんですね。二十先あるいは五十年先あるいは百年先でも、もし農地が汚染されるようなことがあつては、それは子孫に豊かな環境を残すということに反するわけでありますから、もしそういう可能性が少しでもあるのなら、いくらかお金を注ぎ込んだ事業であつても、霞ヶ浦用水をストップする。汚染の拡大だけ

は絶対にしてもらっては困るということとを、関係機関の方がおりましたら、肝に銘じておいていただきたいと思つます。

## 茨城は茨城の論理で豊かな地域づくりを

**田崎** 千代田村にも例外ではなく東京の大資本が押し寄せて来ます。茨城の緑とか農村の環境を守るには、並たいていのことではないと思つます。でも、それを守るため、農業の活性化とかそういう面に努力したいと思つます。

**桜井** わたしは会場の皆さんにお願いします。先ほど富山先生が、人間と土のかかり方を分かりやすく説明してくださいましたが、霞ヶ浦の底には土に返らない、変わることでできない物質が山と積まれています。いわゆるヒニール類とか、カップヌードルの容器のような石油製品です。土に返る、腐ってしまう物は捨ててもいいとは言いませんけど、土に返らない物だけは霞ヶ浦に絶対流さないよう、流れないような方法を取っていただきたいと思つます。

**沼沢** これでパネル討論を終わりますが、最後にわたしの方からシンポジウムのまとめをさせていただきます。

この茨城県は、昔は常陸の国と呼ばれました。約千三百年くらい前ですが、その当時に書かれた常陸国風土記というのがあります。その風土記の中に、

常陸の国というのは、海の幸、まあ水の幸ですね。それから山の幸が非常に豊富でとてもいい所だ。もしかしたら昔の人が常世の国と呼んだのは、この土地のことではないのだろうか、というように感じています。常陸の国は、昔は、いや、つい最近まで非常に豊かな土地柄で、大地も水も命を生み出してきた。そういう故郷であつたと思つます。我々人間も生きものなわけで、大地や水から離れて生きてはいけないわけです。特に最近では、だんだん東京の首都圏が拡大し、都市化の波が押し寄せてまいりまして、農業にしても漁業にしてもなかなか成り立たないような状況になって来ておりますけれども、しかし、それでも今ならまだ間に合うんじゃないか、まだかろうじて残っている豊かな茨城の水と緑を大切に、二十一世紀の子どもたちに渡して行く今がその別れ道に立っているんじゃないかと思つます。富山先生の講演なども参考にしながら、この茨城の豊かな水と緑、それから肥沃な大地、これを大切にしながら、自然保護の考え方を優先し、わたしたちのこの郷土を昔のような住み良い茨城の郷土を守っていききたいものと思つます。茨城は東京の論理ではなく、茨城の考え方、哲学でもって、豊かな郷土づくりふるさとづくりを、やはり二十一世紀のわたしたちの子どもたちや孫たちに伝えていきたいものと思つます。

(了)

● 主婦の立場から

昨年、霞ヶ浦流域河川の水質調査に参加したのですが、実際に霞ヶ浦を見て、本当に汚れているのに驚きました。わたしたちは、あの汚れた水を飲んでるのですね。先日のシンポジウムでも、汚濁原因の四〇％は家庭からだと言っていました。まずわたしたちは、自分の家庭から浄化を始めることが必要だと思っています。洗濯には自然にも人体にも穏やかな粉石けんを使い、流しのゴミはこまめに取り除く、油やみそ汁、しょう油などは流しに流さないなど、簡単なところから浄化は実行できます。自分が流した水が、また自分のところに戻って来ることを考えると、もう川を汚せないはずですよ。



枝 幸江さん  
(柿岡・37歳)

汚濁源の40％は生活排水  
浄化はまず家庭から……

今、河川の水質浄化がどこでも問題になっていますが、わたしの家では、家庭排水は地下浸透式で処理しています。台所から出る生ゴミも植木の元埋めたり、廃油は固形石けんを作ったりして再利用しています。霞ヶ浦の浄化も一人ひとりが身近なところから取り組めば大分きれいになると思います。それに、最近はゴルフ場の農薬問題が騒がれていますが、雨が降ると緑の水が流れて来ます。大分芝生に除草剤や農薬を使うようですね。八郷はまだ緑に囲まれ、野菜や果物も豊富ですけれど、こうした農薬の問題も考えなくてはならないんじゃないかと思えます。



矢口房子さん  
(下林・46歳)

廃油で固形石けんを作り  
生ゴミは植木の元に……

わたしはゴルフをしたことはありませんが、とても楽しいそうですね。一面の芝生と樹木、池。でも、みんな人工のもので、山肌を削って木を植え、傾斜まで造りますが、周りにそのままの山や林があるから余計人工的なのが目立ちます。町にたくさんゴルフ場が出来るそうですが、農薬の問題も心配です。それが土地を傷めるということにでもならなければいいが、と思います。最近の川には、しじみもどじょうもいなくなりました。いろいろな工事で水脈を絶つたり、水源を汚したりというようなことは、最小限にとどめたいですね。これは、わが家の反省でもあるのですが……。



河野容子さん  
(小幡・39歳)

最近の川には、しじみも  
どじょうもいなくなつた

霞ヶ浦の水は、わたしたちの毎日の飲料水の一部となっています。先月のシンポジウムで、その水が思っていた以上に汚れていることを知りました。原因は、ゴルフ場の農薬類、工場・事業所などの排水、家庭の生活排水にあると言われていますが、わたしたち主婦が、家庭から出る調理くずや食べ残しの油をできるだけ流さないようにすれば、水も大分きれいになると思います。わたしたちは「一人くらいいいのではないか」というような考えを捨てて、地域の人みんなが協力して実行にうつせば、きれいな川や霞ヶ浦は必ず近い将来取り戻せるのではないかと思います。



来栖範恵さん  
(柿岡・59歳)

地域みんなが協力すれば  
必ずきれいな川や霞ヶ浦に

かすみぐら  
あなたは水の汚染や自然破壊を  
どのように考えていますか……。





# のどかな下青柳地内に 産業廃棄物の不法投棄

三月、下青柳地内で発生した産業廃棄物の不法投棄。これは、畑の埋め立てと称し、残土に産業廃棄物を混ぜ捨てるというものでした。  
のどかな農村地帯に、突如出現した一日何十台というダンプカーの列……。ここでは、この不法投棄の経過について、お知らせします。

## 全国に広がる不法投棄

今、大きな社会問題となっている産業廃棄物の不法投棄。

茨城県でも、ここ数年、県南・県西部を中心に、こうした不法投棄が急激に増えています。なお、最近のこうした被害は、関東地方にとどまらず、高速道路を使って東北の山奥にまでおよんでおり、千葉市から出された廃棄物が、遠く青森県にまで運ばれ、投棄された事件もありました。

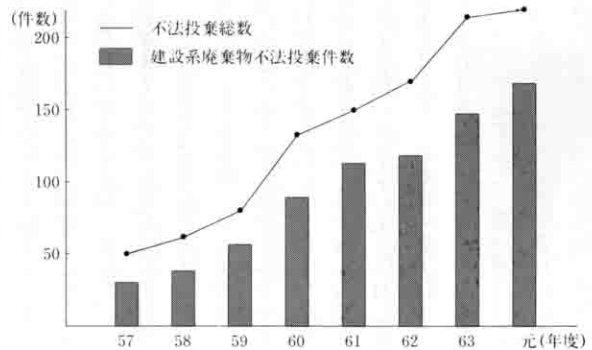
経済の進展、技術の革新、生活水準の向上などにより、廃棄物の排出量は年々予想を上回る増大を続けています。

昔は、日本の建築のほとんどが

木造でした。そしてそれらは、取り壊されても燃料として利用されたり、古材として再利用されたものです。しかし、最近は大きなビルや構造物などが多いため、この建築廃材やコンクリート塊は再利用の道もなく、その処分に困っているのが実情なのです。

このように、いま首都圏では建設系の廃棄物が年々増加しており、この対策が大きな課題となっているのです。首都圏では、廃棄物の処理場等の用地確保も難しく、増大する排出量に処理が追いつけないことが、不法投棄があつたを絶たない大きな原因と言えます。

県内の不法投棄発生状況



## 廃棄物とは……

◎一般廃棄物……家庭から出る生ごみ・ビン・缶及び事業所から出るダンボール・伝票、し尿など。  
◎産業廃棄物……事業活動から排出された廃棄物で廃棄物処理法及び政令第一条で定められた十九種類(燃えがら、汚でい、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、動物や魚の骨及び皮・貝がら・野菜くずなど、ゴムくず、金属くず、ガラス及び陶磁器くず、鉱さい、建設廃材、家畜のふん尿、家畜の死体、ばいじん、廃棄物を処分するために処理した

今回の下青柳地区への不法投棄は、過去に何回かあった当町での不法投棄の中でも、最も大規模なものでした。

千葉県のある産業廃棄物処理業者が、知人を介して町内の地主に「無料で埋め立てをして、畑にしてやる」と話をもちかけ、埋め立ての残土に多量のコンクリート塊や鉄くず、缶、ビニール、木くずなどを混ぜて、廃棄物の不法投棄をしたのです。

この土地の地主は、処理業者と契約書を取り交しており、その中には、はっきりと「産業廃棄物を捨てないこと」という項目が明記されていました。業者の事業計画書にも、「都下水処理施設新設現場からの発生残土で埋め立てる」と書かれています。にもかかわらず、埋め立てられた残土の中には、どこから持ち込まれたのか分からないたくさんの方角の産業廃棄物が混入されていました。

### 現在は有害物の反応なし

住民の方からの通報に、町では直ちに調査等を開始し、県と共に現場の立ち入り検査、地主及び業者の事情聴取、始末書の提出、搬入の中止勧告、撤去計画書の提出等を求めるなど、搬入を中止させるための指導を続けてきました。しかし、処理業者の行政指導を無視

したやり方は、なかなか阻止できず、地域の皆さんからは「町は何をしているのか」と、おしかりを受ける結果となってしまいました。

その後、警察の協力を得て、五月十二日からは搬入を止め、現場を閉鎖しております。なお、五月初旬ころより流域から流れる水が白く濁り始めたため、町では五月三十日にその水と現場の土を採取し、検査いたしました。現在のところ、水質・土壌とも有機質による汚染は見られませんが、有害物質の反応は出ておりません。しかし、今後とも水質の汚染などが心配されますので、町では定期的な水質検査を実施し、引き続き監視を続けて行くことになっております。

### 町では残土条例を準備

また、現在、県と共に搬入された廃棄物の撤去をするよう、処理業者に文書、呼び出し等により指導も続けて行っています。

なお、町では、今後こうした事態が生じた時、初期の段階で適切な対処ができるよう、土砂等による土地の埋め立てに関する「残土処理条例」を作ることになり、現在、県・検察庁など関係機関と事前協議を進めています。

この条例が制定されれば、町内で土地の埋め立てを行う場合には、町の許可が必要となります。

そして、これらに違反した場合に、罰則規定により罰金、懲役刑が科せられることとなります。残土の埋め立ての名目で行われる産業廃棄物の不法投棄を、町の権限で取り締まることができるようになるわけです。

今「ゴミは金なり」という格言があるそうです。それだけ、こうした産業廃棄物は捨て場所に困っているのです。今後、産業廃棄物の不法投棄は、ますます増えることが予想されます。ご存じのように入郷町は純農村地帯です。川

を流れる水や土が汚染されてしまつてからは、取り返しのつかないこととなります。これからは、皆さんが土地を売買したり、賃貸する場合には、相手の目的を良く確認し、怪しいと思われる時は、売ったり貸したりしないなどの心構えが大切です。

産業廃棄物の不法投棄は、個人・地域・町が一つになって取り組まなければ防止出来ない問題です。町民の皆さんに良く自覚してもらい、注意していただくことが、まず先決なのです。

## 下青柳の「産廃」不法投棄

### 町が経過及び対策を説明

七月七日、産業廃棄物に関する説明会が、下青柳田園都市センターで開かれました。

説明会には、地元の方や土地改良区の理事長ら約五十名、町から町長と商工観光課長ら職員三名、県から生活環境課長と職員六名が出席して、不法投棄についての経過説明と質疑が行われたものです。

質疑の中では、何が投棄されているのか分からず、

もの。なお、この産業廃棄物は、その性状・組成により安定型廃棄物、廃プラスチック、ゴムくず、金属くず、ガラス陶磁器くず、建設廃材と管理型廃棄物、前記及び廃油、廃酸、廃アルカリを除く十一年に分類される。

◎有害物質……水銀・カドミウム・鉛・ひ素・銅・亜鉛と各その化合物・有機りん・六価クロム・シアソ・有機塩素の各化合物、ふっ化物、ポリクロロエチレン、フェニール、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンの十四種類。

地元や下流の住民に不安が広がっている。早く不安を取り除く方策を実施して欲しい。投棄された廃棄物は今後どうなるのか。などの質問がありました。

これに対し町・県から、水質検査をした結果、今は問題ないが土質も含め長期的に検査を続けて行く。廃棄物は、当事者に撤去を求めている。今後は、町で残土条例を制定したり、皆さんに安易に土地を提供しないよう協力を求めて行く。など取り組みについて説明しました。



# 町の民俗資料紹介(1)

## 豊富な古文書、数多い民具



名で担当しています。

全体を通じ資料の数が多いのは古文書です。古文書は、村役場関係のものも多く、特定の家に集中して保存されています。内容の調査は専門家でないといけません。歴史館の担当者によると町は古文書の宝庫で、今後の調査に期待する



手ががみ

平成元年度から二年度にわたり、町全域を対象に歴史民俗資料調査が行われています。調査員は十七名、旧町村ごと二、三名で担当しています。

町は山林の多い地域なので、製板用の大鋸等も数点発見されています。製炭用具や木材運搬用具など、今後期待したい用具です。農具は「せんばごき・するす」など穀物の調整用具も数点報告されています。農具には鉄製品が多く、さびやすいので保存性に問題があり点数はありません。木工品の農具など今後の発見を期待しています。

町は古くから開けた地域で、古墳も数百あり、県下でも有数です。さらに、弥生時代の出土品等も期待されますが、現在までに出土品の報告例はありません。数千年前の縄文時代の石器類が予想外に多く報告されています。加波山、葦穂山、筑波山の東斜面畑地等に散乱されたものや耕作中地中から掘り出されたものに石おの、矢じり、発火石等があります。縄文人は、農耕を知らなかったといわれていますが、自然条件の良好だった八郷は多くの人々が居住していたらしく、数多くの遺跡が発見されています。

今後も歴史民俗資料調査を続けていきますのでご協力をお願いします。また、今まで発見された貴重な資料をシリーズで紹介していきます。

とのことです。柿岡や大増の宿場は、火災により焼失しているようですが、家が散在している集落にはまだまだ眠っている古文書がたくさんあると予想されます。

次は点数の多いのは民具で、儀式用具、縁起物、什器などが保存されています。嫁入り道具の手鏡(金属製などは、保管に都合のよいこともあつてか、数多く残されています)。

江戸時代の衣服も大切に保管はた織機をはじめ、布や製糸関係の民具はあまり発見されていませんが、江戸時代はもちろん、大正のころまで衣服は自給自足が原則だったので、まだまだ死蔵されている物もあると思われます。

また、江戸時代から戦時中の国民服まで大切に保管されている家もあります。町はクヌギ林も多かったので天蓋(やままゆ)製の衣服があるのではと期待しています。山村には、夜着をやままゆで織り、長年にわたって愛用した習慣がありました。クヌギは、やままゆに与える飼料で、町では「そだ」とも呼んでおります。

江戸時代の衣服も大切に保管

県下でも有数の古墳の郷

高齡者センターに洋式トイレの設置を

町長さんこんにちは

町に六六十人ほどおり、現在も成人病や交通労働災害等により年々増加の傾向にあり、こうした福祉に対するニーズが多様化しております。

このため町は、国・県と一体となり、成人病予防対策や交通労働災害防止はもちろん、精神的経済的な援助体制を講じながら社会復帰できるよう訓練施設や介護施設の整備を図っております。また、障害のある方への理解を深め、自意欲の高揚を図るための各種の啓発事業も実施してきております。

先日高齡者センターに行きましたところ大変立派に良く完成して、皆さんが楽しんでるところを見ると良かったと思います。

私は、身体に障害があるものなので、「トイレ」を使用するかなと思いましたが、洋式かなく困りました。八郷町内には私の様な人が何人かいるはずですが、洋式のトイレが一つでいいです。

今からでも出来るはずですので、福祉課でも大変でしょうかお願いします。

山崎 成田 清(60歳)

身体に障害のある方は、八郷

しかし、ご指摘の件については、大変ご不便をおかけいたしました。申し訳なく思っております。私自身その必要性を痛感しておりますので早速担当課に指示し、洋式トイレに替えますとともに、ドアにつきましても付け替えをして利用しやすいようにいたしました。

今後は安心してご利用いただけるものと思います。

ご意見、ご提案に  
ご回答、ご返答

対話のページ

26



# スポーツ ニュース

## 500名が記録に挑戦

町小学校陸上記録会が、五月十日、総合運動公園で行われ、小学五・六年生約五百名が記録に挑戦しました。結果は次のとおり。

〔100m〕▽五年生男子開田猛史16秒2(柿岡)▽同女子甘楽恭枝16秒7(吉生)▽六年男子茂垣誠14秒7(柿岡)▽同女子鈴木洋子15秒8(柿岡)〔200m〕▽五年男子松崎泰幸32秒7(小幡)▽六年男子萩原勝30秒1(林)〔60mハードル〕▽五年男子高瀬仁



11秒1(小幡)▽同女子雨具美穂11秒9(朝日)▽六年男子河村照円10秒1(小桜)▽同女子川又達子11秒9(小桜)〔400mリレー〕▽六年男子小桜小1分01秒▽同女子小桜小1分4秒9▽五年男子林小1分3秒9▽同女子瓦会小1分7秒8〔800m〕五年男子上田健一2分49秒7(林)▽同女子

小石川香織2分54秒8(林)〔1000m〕▽六年男子長谷川功3分27秒2(園部)▽同女子大瀬郁子3分52秒(林)〔走り高跳び〕▽五年男子関聡1m18cm(柿岡)▽同女子中島永子1m8cm(吉生)▽六年男子石塚宜享1m36cm(小桜)▽同女子甲奈帆1m17cm(林)〔走り幅跳び〕五年男子鶴田友和4m22cm(林)▽同女子磯山恵子3m39cm(柿岡)▽六年男子鬼澤直人4m24cm(園部)▽同女子嶋田貴美3m48cm(柿岡)〔ボールスロー〕▽五年男子桜井秀二44m(恋瀬)▽同女子鈴木玲子24m92cm(小幡)▽六年生男子大山美德51m10cm(芦穂)▽同女子小林幸恵35m23cm(小幡)

## たんに血が混じりますが

お答え 石岡市医師会病院 呼吸器科 滝沢延彦医師



最近、たんに血が混じるのですが、悪い病気ではないかと心配です。

たんに血が混じる場合は、その多くは炎症である気管炎、気管支炎などですが、肺結核や

肺がんの場合もあります。まず、病院で受診して胸部のレントゲン写真を撮影して異常な影がないかどうかを調べられたほうがよいでしょう。

レントゲン写真で影がない場合でも、あなたが四十歳以上で、たばこを一日二十本以上吸われる方

なら、肺がんの可能性が少し高くなります。

特に、太い気管支にできる肺がんは、気管支をふさぐくらいの大さきにならないと、胸部のレントゲン写真では異常な影を指摘することはできません。一度、内視鏡検査を受けたほうがよいかと思われま

す。肺がんを専門にしている施設で、たんに血が混じると訴えられた方を内視鏡検査してみると、その中の約三分の方から肺がんを発見しています。

## ●専門医にきく



ことしの初めに当医師会病院でも、たんに血が混じると訴えられて受診された方に、内視鏡検査を行いましたら、約八ミリ大の早期がんが見つかりました。その方は、今は手術を受けてお元気になりました。

先きにも述べましたが、太い気管支にできたがんは、小さいうちは胸部のレントゲン写真では写らない場合が多いのです。四十歳以上の重喫煙者の方で、たんに血が混じるようなことがある場合は、内視鏡検査を受けることをおすすめします。



## 海老沢愛ちゃん(須釜)

父 秀吉さん 母 京子さん  
昭和62年7月31日生まれ(二女)  
♥家族からの一言

お砂遊びが大好きです。おねえちゃんが保育所から帰ってくるといつもいっしょにテレビを見たりお外で仲よく遊んだり。明るく心のやさしい子に育ってほしいと思っています。



みんなの広場 皆さんが作るページです。あなたの作品をお寄せください。

図画・イラストコーナー



月岡 中村美保(9)



小見 柘植美和子(11)



山崎 北川 寛(9)



小見 高野温美(9)

私も  
ひとこと

日 ころ感じていることがあります。ますのでペンを取ります。

わたしの近所の家で犬や鶏、その他の動物を飼っている方がおりますが、そのにぎやかさに常日ころから悩まされております。

息子は、朝早い仕事をしておりますが、時でもない時刻に鳴く鶏で目が覚め困っています。また二匹いる犬もキャンキャンよく鳴き、家が隣接しているため誠に迷惑しております。飼主は、昼は不在です。

隣り近所ということもあり我慢しておりますが、余りにも非常識で自己本意な態度に怒りを感じます。何事も寛大に包容力を持ち、人とのふれ合いを大切にと思っておりますが、やはり凡人、なかなか仏のようにはなりきれません。動物を飼うのもけっこうですが一軒家ではありません。隣り近所のこととも考慮して頂きたいと思っております。

匿名希望  
しばらくぶりで、下の県道を歩いたところ、水道工事を

習字コーナー

評 翠嵐社院 関 翠 邸

柿岡小一年 さとうたけし



柿岡小四年 鈴木美絵子



中国の晋漢時代に実用体で書いた木簡に似ている。自由に端的で、たらいもなく楽しく見られます。伸び伸びと自由に元気にあふれています。しかも鋭敏な感性をそなえた字です。

や さと広報をいつも楽しみに読ませていただいております。町のようすがいろいろと理解できて大変勉強になります。また、行事予定カレンダーもいっしょにおり込まれるようになり、今までより見やすくなった気がします。

した所が一カ所、深さ五十センチ、まわりは子供の足が入るくらいの穴があいていました。すぐ家に帰り水道課に電話をしたら「すぐ直します」と、言ってくれました。夕方、その所に行って見ましたら、きれいに直してありました。だれもけがした話も聞かず、良かったと思います。

付け加えてもう一言、小桜駐在所の前の県道ですが、雨が降るたびに大きな水たまりが出来、車が通るたび困っております。できれば工事していただきたいと思っております。

匿名希望  
県道の補修の件につきまして、は、担当課に申しつたえました。

大塚 富田美江子(43)

今年、四月から行事予定カレンダーを一カ月分ずつ広報の中へおり込むようにしました。これまでは、一年間のカレンダーを四月にまとめて配付しましたので、年度当初に計画の立てられるものしか掲載できませんでした。これで、今までよりも詳しい行事予定がお知らせできるものと思っております。

フラワーパークの  
テレホンカードが当たるよ

# 広報クイズ 28

3つの答えの中から正解を選び、  
ハガキに書いて送ってください。

①水と緑のシンポジウムが開催されたのは何月？

(A) 5月 (B) 6月 (C) 7月

②日本で最も汚れた湖といわれているのはどこ？

(A) 琵琶湖 (B) 十和田湖

(C) 霞ヶ浦

③霞ヶ浦に海水が逆流するのを防ぐためにつくられた常陸川水門は、通称何と呼ばれているか？

(A) 霞ヶ浦水門 (B) 逆水門

(C) 利根川水門

### 【応募の方法】

☆ハガキに広報クイズ28と書き、  
答えの記号(例1-A)、住所、氏名、  
年齢、世帯主と「私もひとこと」  
への意見や広報の感想などを書いて  
送ってください。イラスト、マン  
ガも大歓迎。

☆全問正解者の中から抽選で10名  
にフラワーパークのテレホンカー  
ドをプレゼントします。

☆締切日 平成2年8月15日

☆当選者の発表 本紙9月号

### 【広報クイズ26の当選者発表】

正解は1-C、2-B、3-Aでした。  
応募25通、正解24通の中から次の  
10名の方が当選しました。

木村良重(上曾) 小林芳子(小屋)

山口節子(上林) 菱沼和行(月岡)

富田恭雄(大塚) 松延健一(辻)

額賀智美(下林) 小林清美(月岡)

駒場香央里(吉生) 大山安(鯨岡)

= 敬称略 =



大増 路川亜希子(15)



小見 高野理沙(11)

## ● やさと文芸

### 短歌

吉田次郎選

暮れなすむ筑波に雲の湧き出でて明日は雨かと心煩う

東成井 鈴木君江

こぼれおつる青き梅の実手にすれば学業なかばに逝きし孫想ふ

弓弦 塚田喜代

ほのぼのと己の命光らせて螢は闇を縫いつつ飛べり

東成井 大和田 利

### 俳句

綿引鼓峰選

百姓に定年はなし麦の秋

東山崎 小松みき

上簇の近し給桑ねんごろに

川又 室井つねよ

窓開けて蛙聞きをり病より

上曾 足立喜一郎

### 俚謡

大木嶺月選

昔ながらの我が荒家に縁を切らずに来る燕

東成井 小島せん

五歩の知恵でも力じゃ八歩仕上げ上手な十三歩

東山崎 小松みき

畑の野菜も田んぼの稲も欲しい雑草のこの強さ

柿岡 上曾 醉人

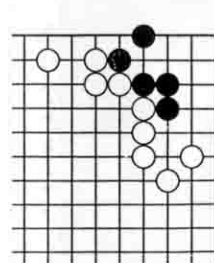
### 有段を目指して

詰碁出題 九段 武宮正樹

白先黒死・5手まで

ヒントヨセを打つつもりで。

5分で1級、2分以内で有段者



詰碁出題

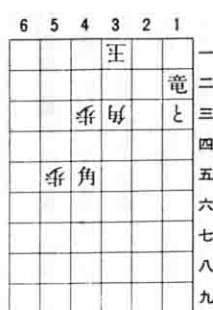
八段 北村昌男

ヒント玉を4筋5筋へ追うべき

かどうか。

6分で2級

持駒 銀



身近な出来事や地元の話をおよせください  
(連絡先・広報課内線二一六)



## グリーンヤマトのウォッチング

日光や那須の山々は知っていても、目の前にある郷土の山を知らない子供たちに、郷土の良さを理解してもらおうと、町最高峰の「加波山に親しむ会」が開催されました。

五月二十八日、町の小学五・六年生から希望者を募り、八郷ライオンズクラブが主催したもので、

子供たちは、山頂の動植物や巨岩の説明を聞いたたり、山に伝わる神定や自由民権の加波山事件の説明を受けたりして、郷土の歴史も学びました。また、山頂を越えるハングライダーに歓声をあげたり、昼食には、他の登山者とともに豚汁の会食なども行われ、子供たちは、貴重な一日を体験しました。

## 緑と清流の町づくりを考えよう

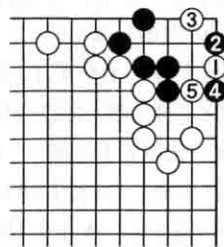
今、世界的な規模で自然破壊、環境汚染が叫ばれています。そんな中、八郷町の農林業と暮らしを守り、緑と清流の町づくりを考える「八郷町の環境を守る町民連絡会」がつくられました。

同会は、農業を営む方や、会社員、教員、団体職員、主婦など、さまざまな職業、立場の皆さんで

組織され、それぞれの立場から、今、町でも大きな問題となっているゴミの不法投棄、ゴルフ場問題、また生活排水などわたしたちを取りまく生活環境について、住民一人ひとりが自ら考えていこうと作られたものです。

写真は、七月八日、中央公民館で行われた結成総会のもよう。

有段を目指して 解答



詰碁正解 白1のサルスベリが平凡ながら好手。黒2のとき、

白3は三の一の急所で黒4には白5で二眼ならず。

詰碁正解 4二銀、同角、3

二竜、同玉、2三角成、3一玉、2二とまで七手詰め。

〈解説〉4二銀そして竜捨てにより、盤上の角が威力を示します。初手2二銀は有力な手ですが、4二玉、3三銀不成、同玉、1一角、2四玉以下、逃げられず失敗。

ありがとうございます

○恋瀬保育所へお手玉二百五十個、ぞうきん百枚

月岡 萩原志づ

○南中学校へ国旗掲揚塔

須釜 飯田勝久

○小幡小学校へぞうきん五百枚

小幡 鬼沢サク

## お父さんソフトボール大会

町ソフトボール連盟の町長杯大会が、五月二十日と二十七日の両日、総合運動公園で行われました。試合は、十七チームが参加しトーナメント方式で進められ熱戦が繰り広げられました。結果は次のとおりです。

優勝 大塚ソフトボール 準優勝 柿岡上宿ファートルズ 三位小幡キングズ・園西ソフト



## 色とりどりに花壇づくり

瓦会第二老人クラブの皆さんが、六月三日、瓦会地区多目的研修センターの花壇の整備を行いました。当日は、会員が各自、花の苗を持ち寄ったところ二百株もの草花が集まり、花壇はアツという間に色とりどりの花で埋まりました。夏から秋にかけて、同センターを利用する皆さんの目を、多様に楽しませてくれることでしょう。また、当日は、花壇づくりのほかに、芝刈りや草取りなども行い、センターの庭は見違えるようになりました。同老人クラブでは、毎月第三日曜に同センターの清掃も続けており、地域の皆さんに大変感謝されています。



## リーダーの役割・心構えを学習

町子ども会リーダー講習会が、夏休みを前にした六月二十四日、総合運動公園で行われました。講習会には、町内の各子供会から代表者約百五十名が参加、リーダーの役割、心構えなどを学びました。同講習会は、昨年までは夏休みに入ってから一泊二日で実施していましたが、各子ども会の主な活動は、夏休みに多く行われるため、その前にリーダーの養成をしようと、今年度から夏休み前に行うようにしたものです。また、当日は、講習会のほか、プールにこい三百匹、きん魚四百匹を放して、魚のつかみ取り大会も行われました。子どもたちは思わぬプレゼントに大喜び、大きな歓声を上げながら魚たちを追いかけっていました。つかまえた魚は、それぞれビニール袋に入れ、おみやげにもって帰りました。

## 自然が雄大で静かな町

小幡 菅野恵理子さん

問 ご出身はどちらですか。

答 私は秋田県の角館町かどかたで、主人は福島県郡山市です。

問 いつ転入されましたか。

答 昨年の六月です。一年ちょっと過ぎました。

問 ご主人との出会いは。

答 東京で新劇の芝居をしていた時にアルバイト先で、やはり学生アルバイトで来ていた主人と知り合ったのです。

問 ここに住むきっかけは。

答 前は、笠間に住んでいましたが、笠間では、適当な土地がなかなか見つからなくて。

この八郷町は、自然景観が雄大で、静かな町ですし、心にゆとりを持って生活ができると思っております。

問 仕事の方は。

答 主人が家で、伝統工芸的な火瓶や茶器とか、食器類などを焼いています。私は、この三月に長男が生まれたばかりです。で、忙しい時、助手として手伝っています。

### 牧歌的な風景大切に

問 焼きものの仕事は。

答 笠間で六年間ほど修業し、ここで独立しました。ガス窯を使用してありますが、温度やちょっとした作業の加減で製品の出来栄が微妙に変化してきますから、生涯うち込める仕事として、主人もやりがいがあるようで大変張り切っています。

問 子育ての感想は。

## ●ようこそ 八郷の仲間 (16)



答 母にも協力してもらっていますから。この前、保健婦さんが訪問してくださって、いろいろご指導いただきました。

問 趣味とか楽しみは。

答 現在、水戸で六人の仲間と劇団をつくって、活動しています。



ます。私は週一日けいこに通っています。アトリエ公演、また昨年は、夏休みに学校から頼まれて、何回か公演もやりました。真剣に見てくれますし、一つの文化を分かってもらう意味で、これからも取り組んでいきたいです。

問 この町に永住しますか。

答 はい。主人も将来、傾斜地を利用し、マキを使った窯で作品をつくりたいようですから。

問 町に望みたいことは。

答 来たばかりでよく分からないのですが、この牧歌的な風景に感激しています。大切にしていきたいですね。

〔紹介〕秋田美人のさわやかな奥さんです。

## 園芸教室

### ホオズキ

茨城県フラワーパーク

須藤 益実



赤く熟す果実を観賞するために栽培され、盆の供花としてもよく用いられます。元来は、観賞よりも薬用として栽培されてきた有用植物で、鎮咳、利尿、解熱の効果があるとされます。

植え付け場所は、やや湿り気のある日当りの良い所がよく、元肥に鶏ふん、たい肥などを施します。鉢植えの場合は、荒木田土・腐葉土・川砂を混ぜたものを使い、元肥に化成肥料を成長期には液肥を月一回与えます。

実生でも殖やせますが、種類によつては種がでないものもあり、一般的には地下茎の株分けによつて殖やします。植え付け、株分け

の時期は三月がよいでしょう。また、植え付けは三十センチ間隔くらいが適当です。狭いと密生してしまい茎ばかりが伸びて、実のつきが悪くなります。

病害虫の防除は、カメムシの発生に注意します。見つけた場合は早めにカルホス乳剤を散布します。ホオズキという名の由来はホオというカメムシ類の虫がつきやすいところからきています。

東京浅草の緑日のホオズキ市は有名で、そこで売られているホオズキの大半は茨城産です。昔はセリナリホオズキが売られていましたが、今は実の赤くなる普通のホオズキが大半です。



### 飯村とも子 (21)さん

趣味は、バレエ・テニス。理想の男性は男らしい人。スポーツを愛するすてきなお嬢さん。山崎。

